

第2回

南国市社会教育研究集会

500人が参加して

家庭教育のあり方を考える

家庭教育のあり方と充実を考え
ようと、十二月六日、市民体育
館で第二回南国市社会教育研究集
会が、約五百人の市民が参加して
開かれました。

これは、地域の社会教育を振興

し、市民一人一人の生きがいの創
造、安らぎと潤いのある文化活動
の活性化を図る目的で、南国市教
育委員会などが主催して昨年から
行っているものです。

青少年教育について討論した第

一回社会教育研究集会で「子供に
とって憩いの場である家庭や地域
作りを進めなければ」などの意見
が出たことを踏まえ、今年は家庭
教育について討議しました。

会では、まず鈴江教育長が「子
供を取り巻く環境の変化の中で、
社会的に自立のできない子が育つ
ている。今後は知的学習以前にし
つけや人間の生き方の教育を施す

べきと考え、このことを本日の主

題として意見を出し合い、意識の
ある会にしてもらいたい」とあい
さつ。

小笠原市長の祝辞に統いてシン

ポジウムに移り、「いま家庭教育
に求められているものは」と題し
て元高知放送ニュースキャスター
の品原淳次郎さんをコーディネー
ターに五人の登壇者がそれぞれの
体験に基づいて意見を出し合いま
した。

○家庭だからこそできることに力
を注ぎ、親が見本を示すことによ
つて善惡のけじめをつけることが
できる教育と基本的生活習慣の育
成を。

○今は、親が子供を前からひっぱ
り、子供の行き先を決めていたが、
本当は子供を後ろから見るのがよ
い。

豊原さんがユーモアたっぷりに講演

空間であり、両親は子供と
心を通わせ合うことが必要
だ。しつけは親の姿勢で染
み込ませるべき。

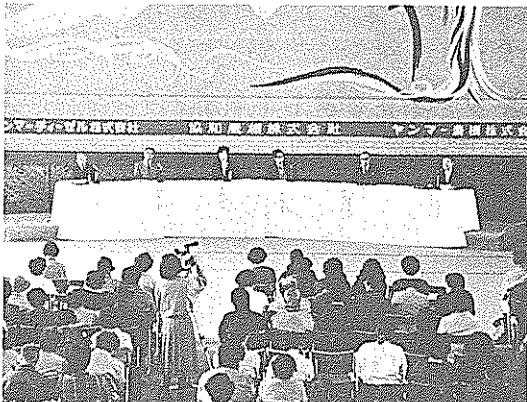
○子供は親の言うことは聞
かないが、親がすることは聞
き通りするので、自分自
身を語ることが教育である。

○本当の教育は祈りである。
手を合わせる教育、祈りの
教育を行い、永遠に対して
最初に目を開かせるのが家

庭である。

意見発表の後会場とも意見交換。
「豊かな時代だが、満たされたと
ころに大きな欠陥があり、親の子
供に対する愛情が物に置き換えら
れられた結果、子供の求める愛情は与
えられず、もつと大事なことが見
えなくなっている」一家庭により
愛情の形というのとは違うのではないか
などと熱心に討論が行われ
ました。

○その後「私の子育て体験から」
と題してフリーアナウンサーの豊
原ミツ子さんが記念講演。自分の
子供時代のことや結婚してからの
ことなどを独特の語り口でユーモ
アたっぷりに話し、会場を埋めた
人々は時間も忘れて熱心に聞いて
いました。



5人の登壇者によるシンポジウム

約500人の市民が参加して社会教育研究集会
が開かれだ

○家庭の機能はくつろげる

空間であり、両親は子供と
心を通わせ合うことが必要
だ。しつけは親の姿勢で染
み込ませるべき。